

# 霞ヶ浦導水事業の検証報告書(素案) についての意見

利根川流域市民委員会

1

## 霞ヶ浦導水事業の目的

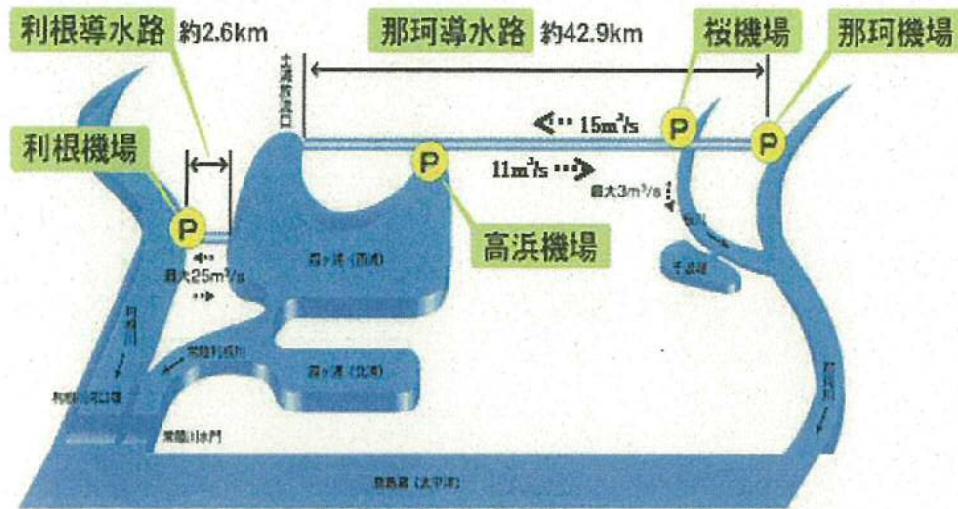
- ① 霞ヶ浦等の水質浄化
- ② 新規利水の開発
- ③ 流水の正常な機能の維持  
(利根川と那珂川の渇水時の補給)

## 霞ヶ浦導水事業の三つの目的は虚構

検証報告書素案では、三つの目的とも、現計画案が他の対策案と比べて最も有利であると判断されているが、そもそも、霞ヶ浦導水事業の三つの目的はいずれも虚構のものであり、実際には事業が完成しても、それらの目的を達成することができない。

2

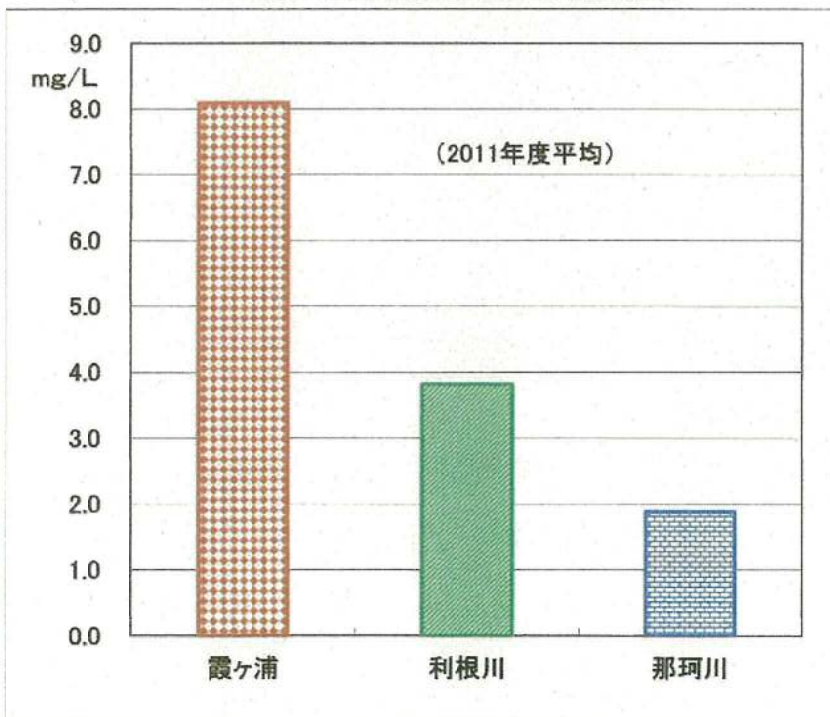
②「新規利水の開発」と③「流水の正常な機能の維持」は、霞ヶ浦を經由して水量に余裕がある河川から、水量の少ない河川に水を送ることにより、都市用水を開発するとともに渇水時の補給を行うものである。



しかし、霞ヶ浦の水質は利根川、那珂川と比べると、劣悪であるため、霞ヶ浦の水を利根川、那珂川に入れることはできない。

## 霞ヶ浦・利根川・那珂川の水質比較

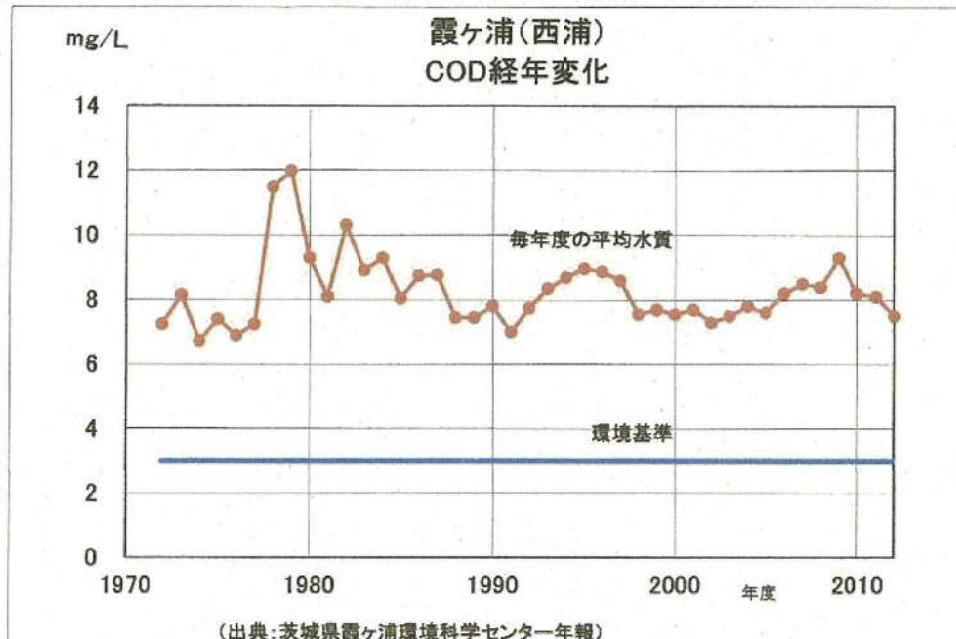
### COD(有機汚濁の指標)



汚れた霞ヶ浦の水を渇水時に那珂川や利根川に補給すれば、那珂川、利根川の水生生物が大きなダメージを受けることは必至である。

## 霞ヶ浦の水質は改善の兆しがない

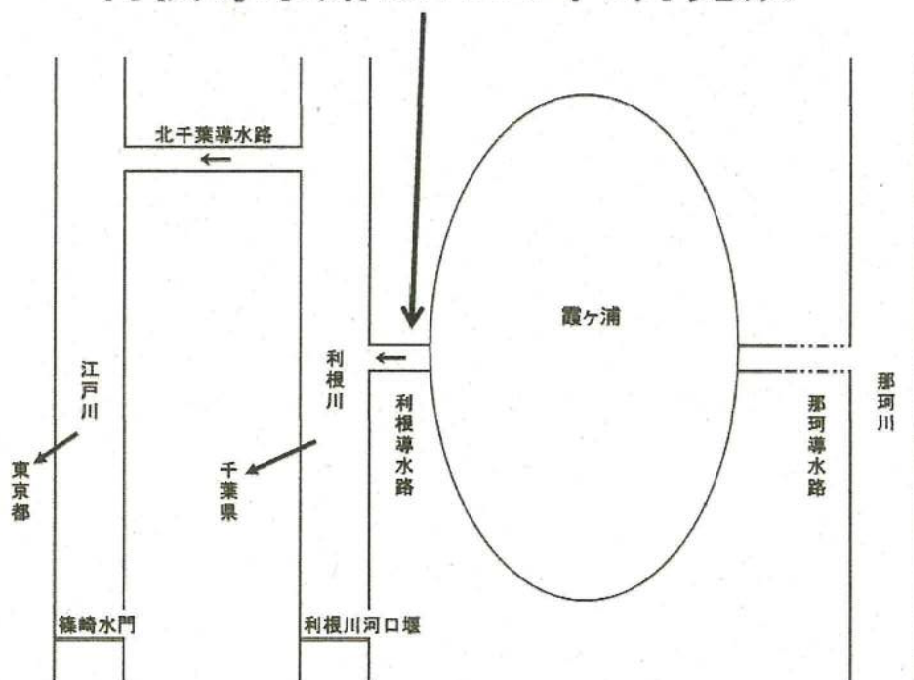
霞ヶ浦の水質を改善するため、下水道の普及など、様々な取り組みがされ、巨額の対策費用が投じられてきているが、霞ヶ浦のCODは低下の傾向が見られず、環境基準の数倍以上の値で高止まりしており、改善の兆しがない。



したがって、いずれは霞ヶ浦の水質が改善され、利根川、那珂川に補給できるようになるという話も成り立たない。

5

## 利根導水路は1994年3月完成



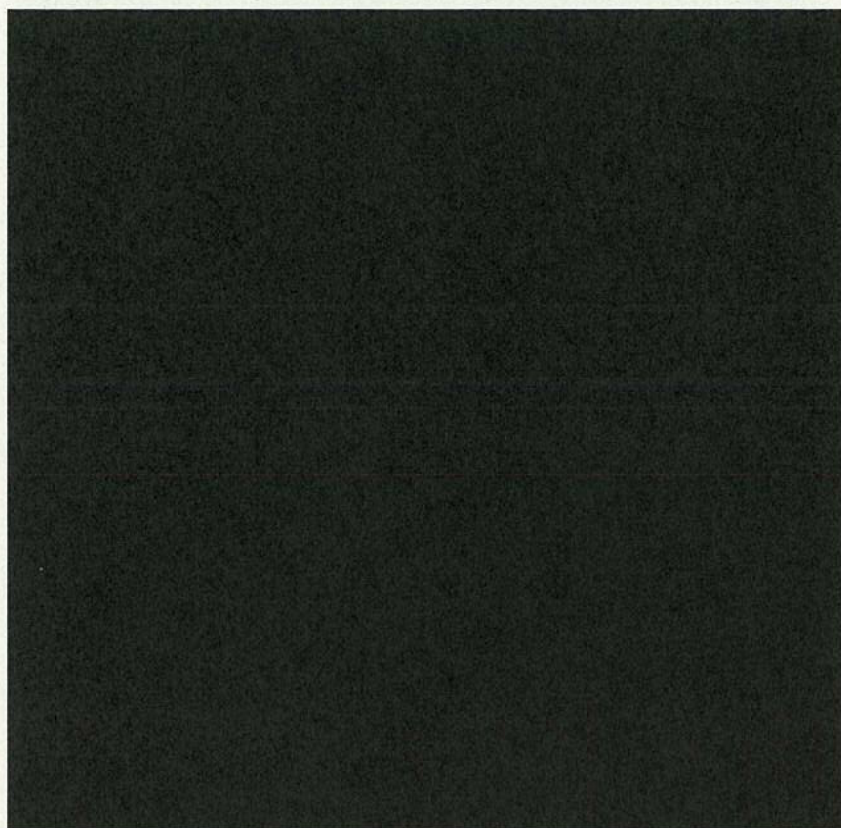
利根導水路は霞ヶ浦開発の施設を兼ねていて、利根川連絡水路といわれる。

(利根川連絡水路:霞ヶ浦開発の水源を利根川に送水して、東京都、千葉県が使えるようにするための施設)

6

## 利根導水路は開かずの水路になっている

利根導水路は1994年3月に完成し、1995年9月に試験通水が行われ、霞ヶ浦の水を利根川に送水したところ、利根川でシジミの大量死が起きた。その後、右の新聞記事のとおり、試験通水は見送られており、現在も利根導水路の利用状況はほぼゼロの状態が続き、利根導水路は開かずの水路になっている。



### 開かずの水路「利根導水路」 (利根川連絡水路)

運用実績(1995年9月の試験通水以降、現在まで)

利根導水路としての実績(国土交通省)

ゼロ

利根川連絡水路としての実績(水資源機構)

2007年4月25～29日の5日間のみ

利根川と比べて、霞ヶ浦の水はひどく汚濁しているので、利根川に導水することができない。

霞ヶ浦導水事業の目的、②「新規利水の開発」と③「流水の正常な機能の維持」は成り立たない。

## 目的①「霞ヶ浦等の水質浄化」も虚構

霞ヶ浦の汚濁の機構を踏まえれば、利根川と那珂川から霞ヶ浦に導水しても、霞ヶ浦の水質は改善されない。

霞ヶ浦は有機汚濁物質による汚濁がひどく進行しているが、その主因は外からの有機汚濁物質の流入による一次汚濁ではなく、富栄養化で植物性プランクトン（浮遊性藻類）が異常増殖することによる二次汚濁である。

富栄養化の栄養塩類である窒素とリンの濃度を大幅に下げない限り、霞ヶ浦の汚濁状況は改善されない。



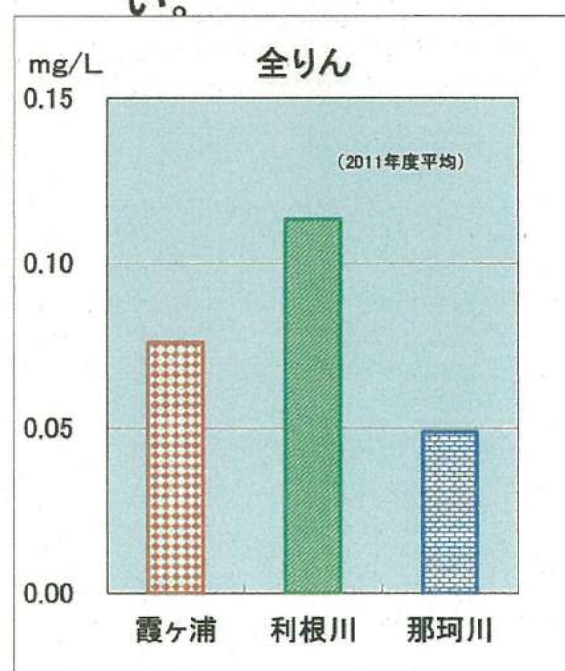
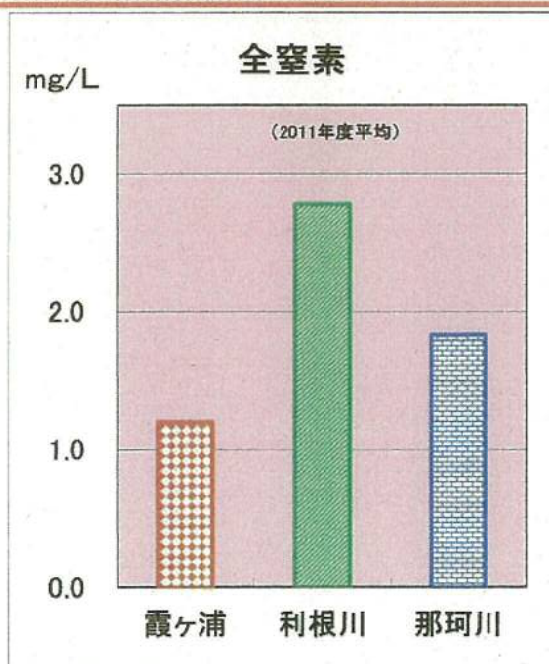
土浦港のアオコ

(出典:平成25年度 茨城県霞ヶ浦環境科学センター成果発表会)

9

那珂川と利根川から霞ヶ浦に導水しても、窒素の濃度は逆に上昇し、リンの濃度はあまり変わらない。

霞ヶ浦の汚濁状況が改善されるはずがない。

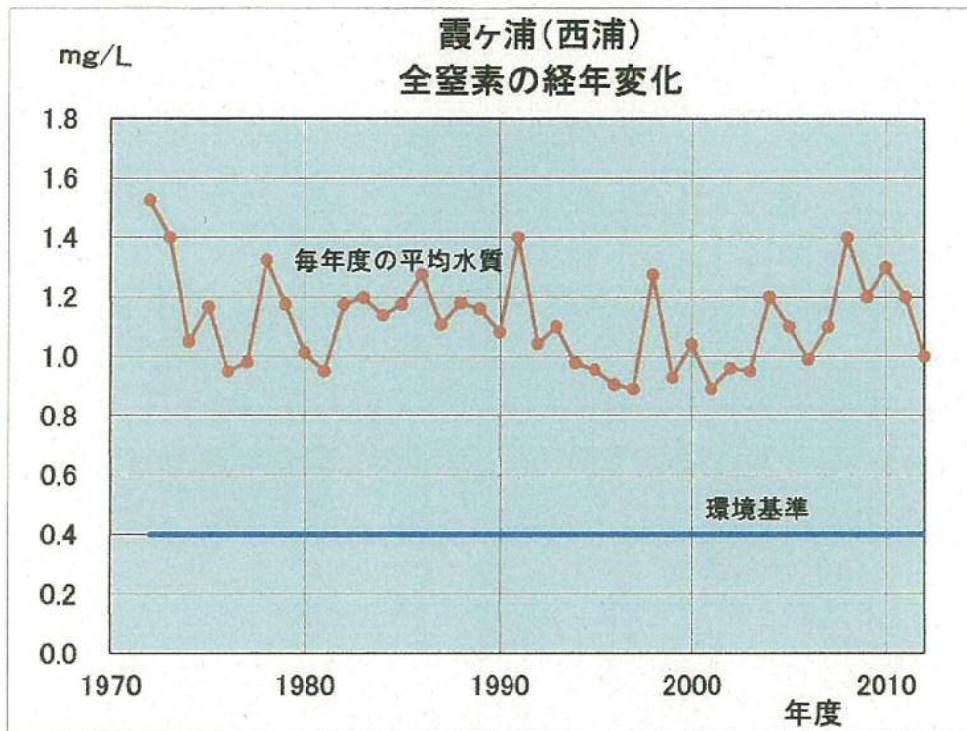


霞ヶ浦・利根川・那珂川の水質比較 (2011年度平均)

(霞ヶ浦:西浦平均、利根川:金江津、那珂川:勝田橋) (出典:茨城県「公共用水域の水質等測定結果」)

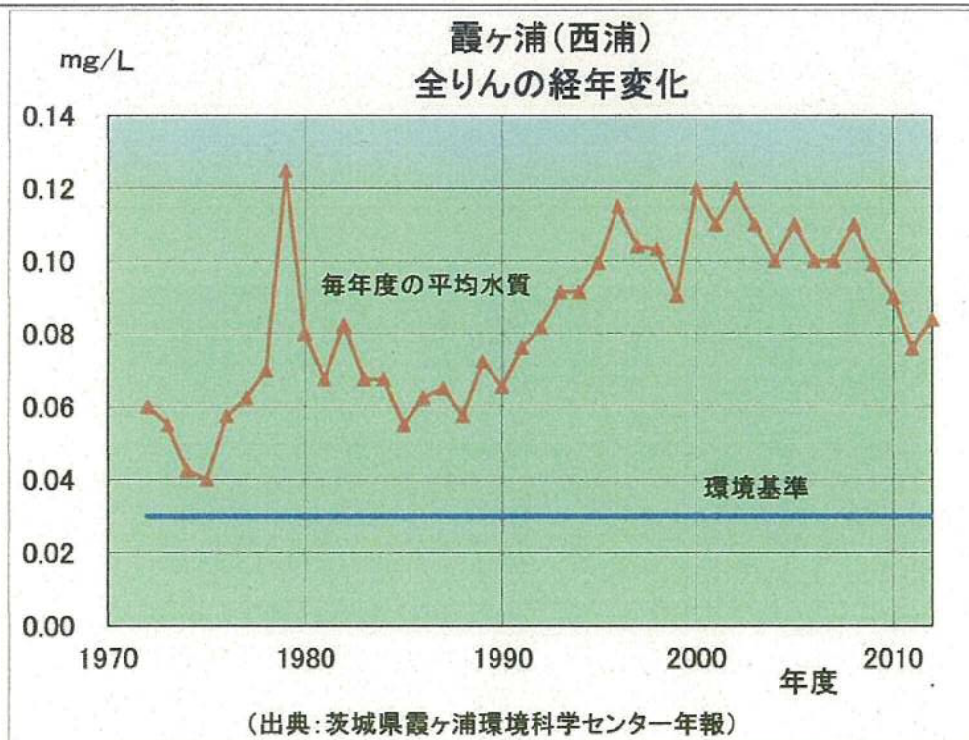
10

霞ヶ浦の窒素、りん濃度は環境基準の数倍の値で、高止まりにしており、改善の傾向が見られない。



(出典:茨城県霞ヶ浦環境科学センター年報)

11



(出典:茨城県霞ヶ浦環境科学センター年報)

霞ヶ浦の窒素、りん濃度が環境基準を下回るところまで低下しなければ、霞ヶ浦の汚濁状況は改善されないが、利根川と那珂川からの導水はその改善に全く寄与しない。

12

那珂川と利根川からの導水による霞ヶ浦の水質改善は机上の計算による虚構にすぎない。むしろ、導水に伴う底泥の巻上げが水質を悪化させる。



### 霞ヶ浦の水質を改善する唯一の道

常陸川水門を極力開放して、完全水ガメ化をやめること

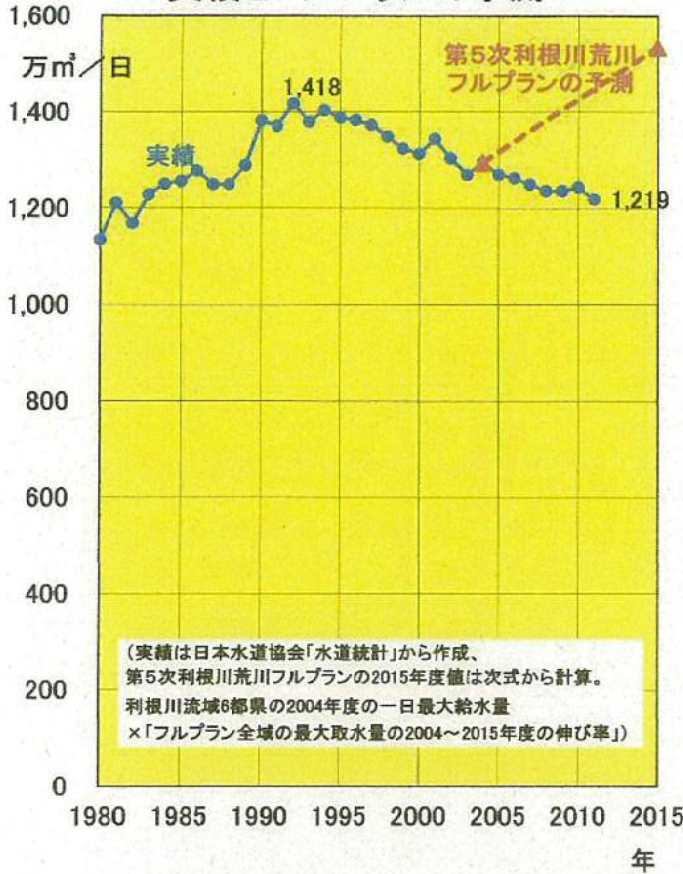
13

首都圏の水道用水、工業用水は減少の一途を辿っており、新規の水源地開発は不要。

霞ヶ浦導水事業により、茨城県、東京都、千葉県、埼玉県の水道用水を $7.052\text{m}^3/\text{秒}$ （撤退する千葉市と東総広域水道企業団を除く）、茨城県、千葉県の工業用水を $1.974\text{m}^3/\text{秒}$ 開発することになっているが、近年は首都圏の水道用水、工業用水は減少の一途を辿っており、新たな水源を全く必要としていない。

14

### 首都圏6都県の上水道の一日最大給水量 実績とフルプランの予測



首都圏の水道用水は減少の一途

首都圏6都県(茨城・東京・千葉・埼玉・群馬・栃木)の上水道の一日最大給水量は、1992年度から2011年度までの19年間に約200万m³/日も減っている。

この減少量は霞ヶ浦導水事業の開発水量78万m³/日の約2.5倍にもなる。

### 首都圏6都県の上水道 一人一日最大給水量の実績



首都圏の一人当たり給水量は年々減少

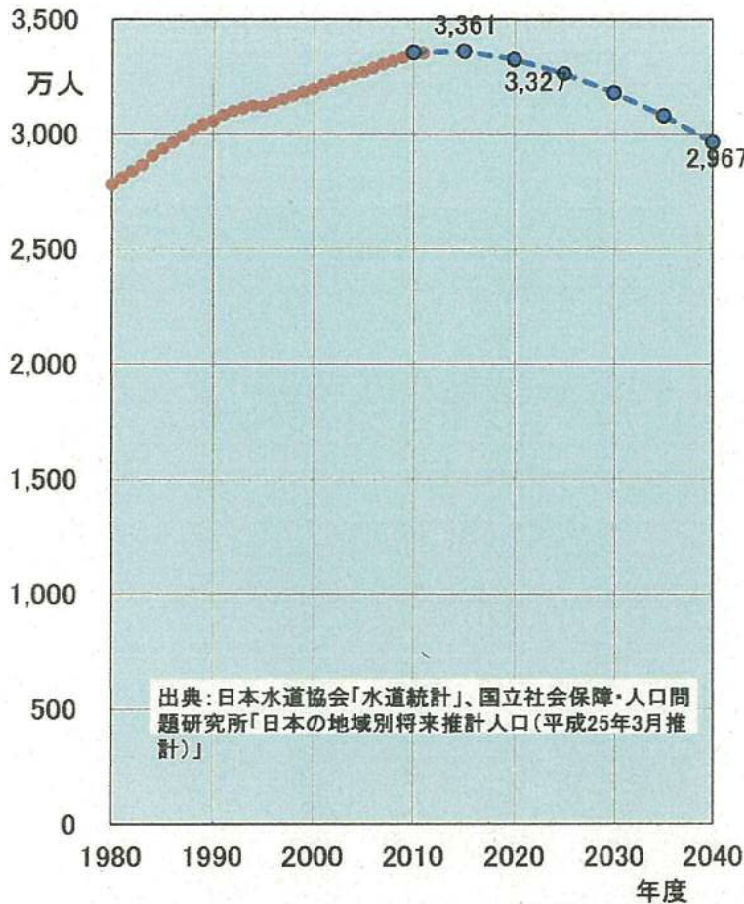
首都圏の水道用水が最近約20年間、減少の一途をたどってきたのは、一人当たり給水量が年々減ってきたことにある。

1992年度の491ℓ/日から2011年度の375ℓ/日へと、24%も減っている。

今後も節水型機器の開発と普及で、一人一日最大給水量の減少傾向が続く。



### 首都圏6都県の総人口の実績と推計



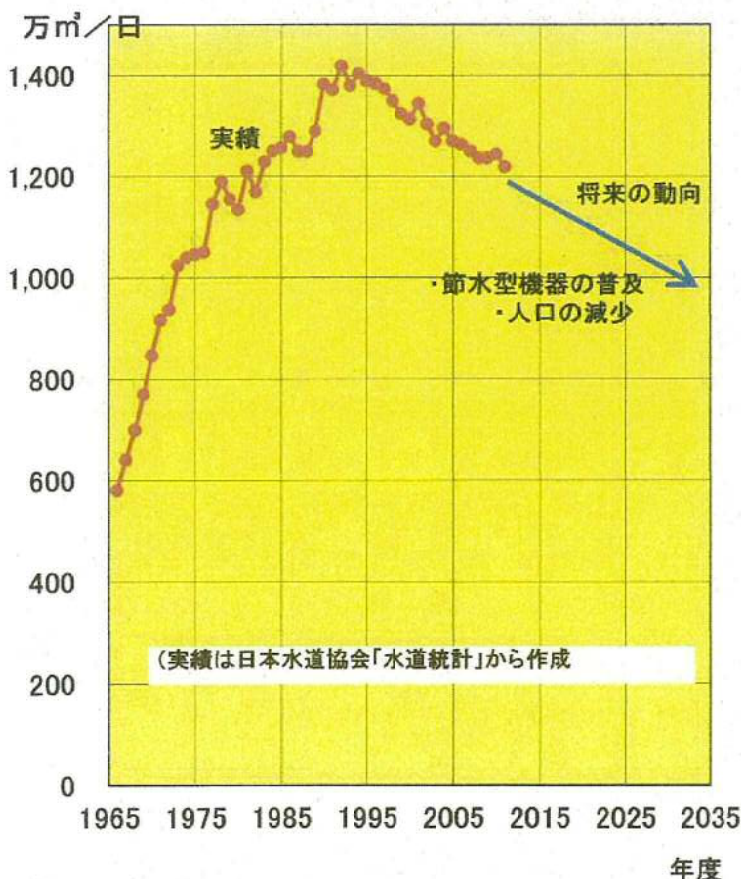
首都圏は人口もまもなく減少傾向へ

首都圏6都県全体としては人口はわずかに増加傾向にあるが、2015年以降は減少傾向に変わる。

2015年3,361万人が2020年には3,327万人となる。

その後は減少速度が次第に速くなって、2040年には2,967万人となり、2010年実績の88%になる。

### 首都圏6都県の上水道の一日最大給水量



水道用水の需要は縮小の一途

今後は一人当たり水道用水だけではなく、人口も減少傾向に向かうのであるから、首都圏の水道用水の需要が縮小の一途を辿っていくことは確実である。

首都圏6都県の工業用水の動向



工業用水の需要も  
減少の一途を辿って  
いる

霞ヶ浦導水事業の  
水源開発は意味を  
失っている。

## 霞ヶ浦導水事業の三つの目的は虚構

霞ヶ浦導水事業の三つの目的はいずれも虚構のもとにつくられたものであり、仮にこの事業が完成しても、それらの目的は達成することができない。

さらに、首都圏の都市用水が縮小の一途を辿っていく時代において霞ヶ浦導水事業という新規水源開発はまったく無意味なものになっている。

したがって、巨額の公費を浪費し、自然に大きな影響を与える霞ヶ浦導水事業は中止の判断がされなければならない。